

# みかんのへた山古墳



発掘調査の概要



令和3（2021）年3月

赤穂市教育委員会文化財課

## 古墳と坂越湾



## 1 はじめに ～調査経緯～

兵庫県指定史跡になっている「みかんのへた山古墳」は赤穂市坂越のさこし小島地区にあります。古墳の名前は、丸い山の頂上に古墳が飛び出すように築かれているようですが、「ユウ（柚子）のへた」「みかんのへた」のようにみえたことに由来しています。

この古墳のまわりは山火事などのために木が少なく、古墳の土が流れ出したり土砂くずれを起こしている状態になっています。そのため、赤穂市教育委員会では本来の古墳の形状や残存状況を確認し、保護のための情報を得ることを目的として平成30(2019)年度から発掘調査を開始しました。発掘調査によって、これまで不明な点が多かった「みかんのへた山古墳」の本当の姿が明らかになってきました。

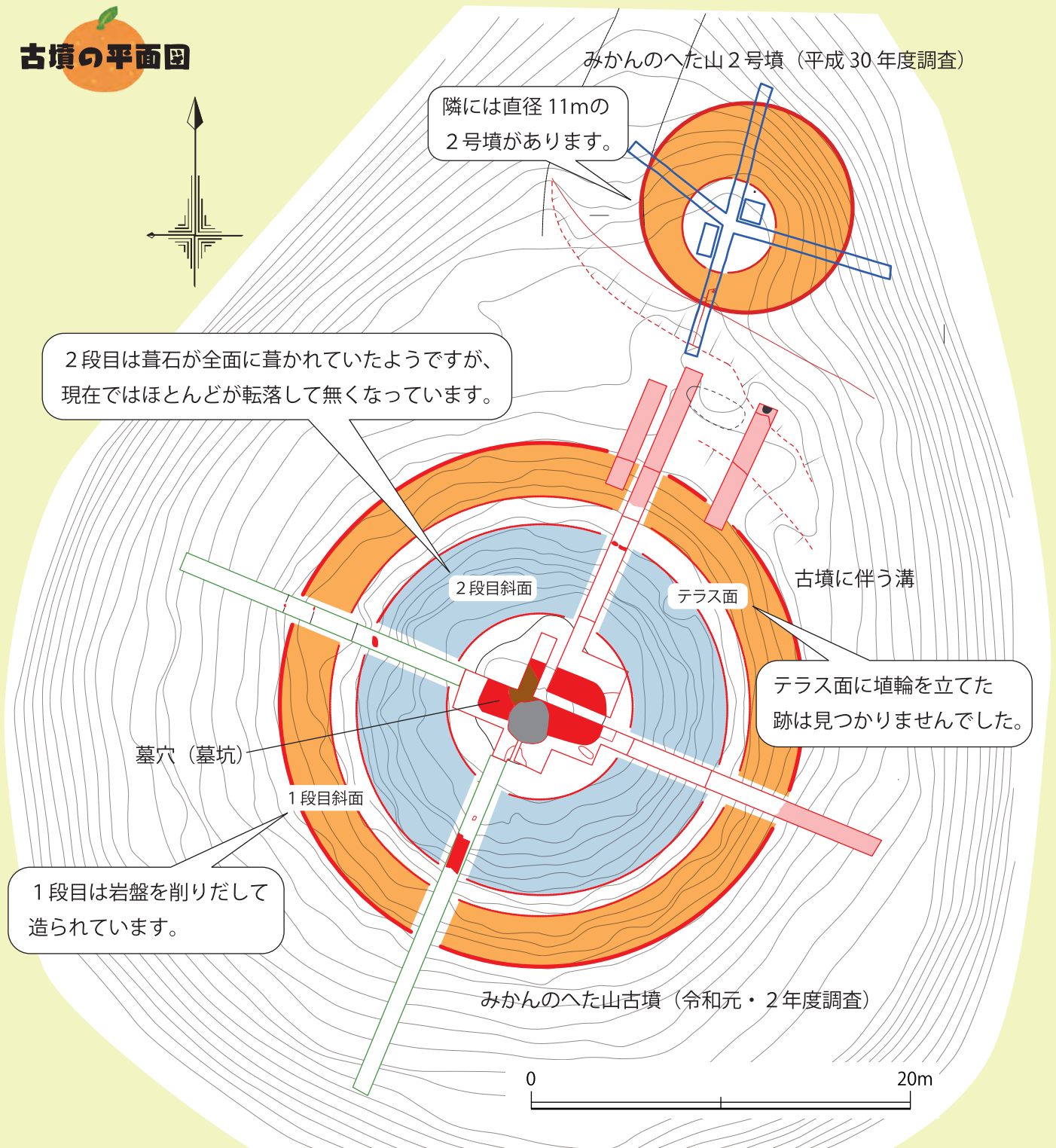


## 2 古墳のかたち ～墳丘構造・年代～

調査の結果、みかんのへた山古墳は直径 28m、高さ 4 m の円墳（上からみると丸い形をした古墳）であることがわかりました。出土した埴輪<sup>はにわ</sup>の年代から、造られた年代は今から約 1,600 年前（古墳時代前期末～中期初頭）と考えられます。

また、古墳は「二段築成<sup>にだんちくせい</sup>」とよばれる形で、古墳の斜面の途中に平坦な面（テラス面）がめぐっていることがわかりました。さらに古墳の表面に埋め込まれた「葺石<sup>ふきいし</sup>」がみつかりました。これは古墳の表面の土砂が流れ出すのを防いだり、古墳を飾りたてる役割があったと考えられています。ただし葺石は斜面の上段にのみに施され、テラス面より下段にはありませんでした。テラス面には通常、埴輪が並べられますが、調査では埴輪が並んでいた跡は見つかりませんでした。

### 古墳の平面図





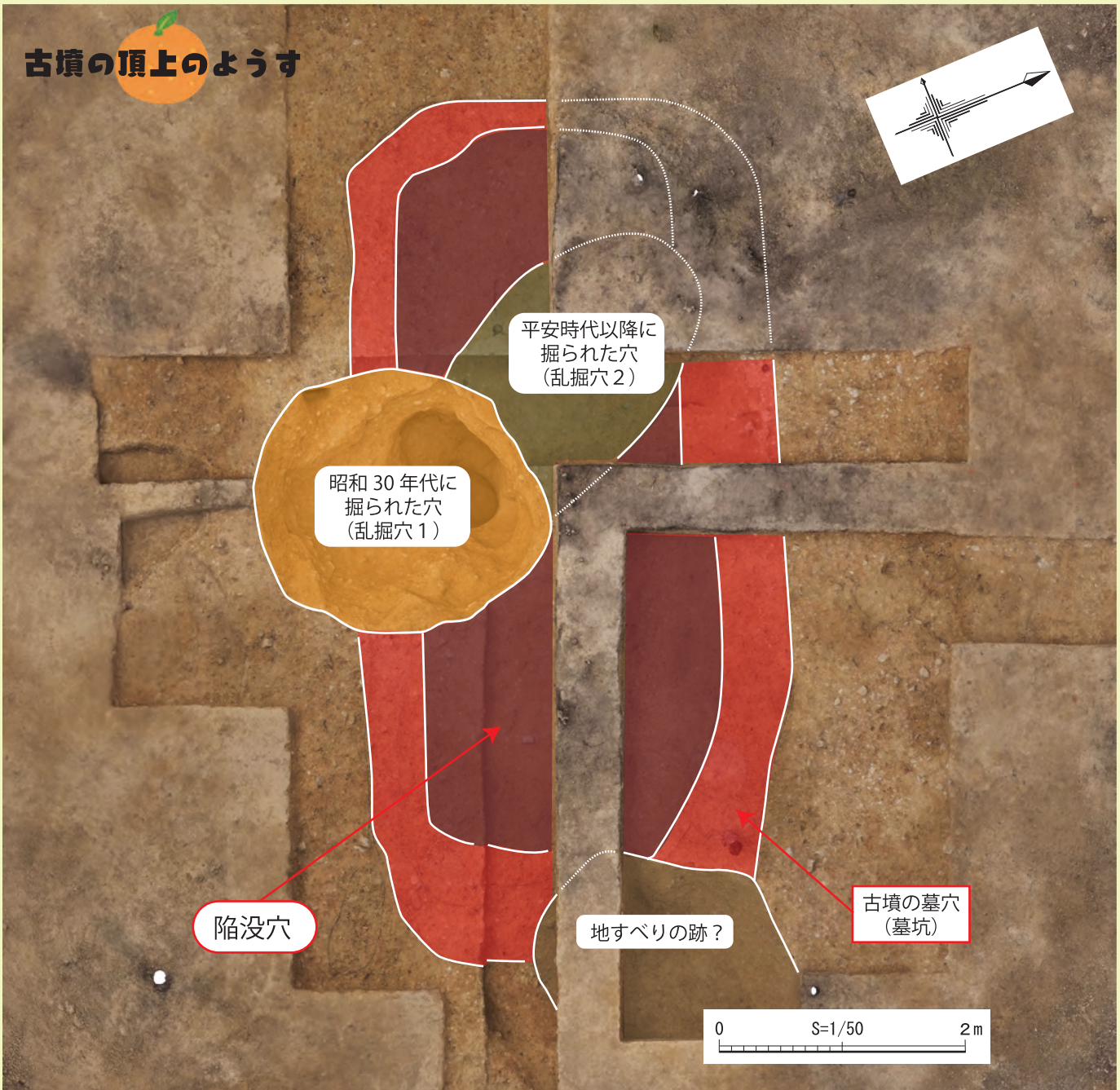
### 3 古墳の頂上 ～埋葬施設～

今回の調査では、激しく土が流れ出していた古墳の頂上についても調査を行いました。

その結果、頂上部の平坦面のほぼ中央に東西の長さ約 7.0m、南北の長さ 3.5mの墓穴（ほこう墓坑）の輪郭がみつかりました。墓穴の周囲には昭和 30 年代（約 60 年前）に掘られた穴（乱掘穴 1）のほか、平安時代後期（約 900 年前）以降に掘られた穴（乱掘穴 2）が見つかりました。乱掘穴 2 は棺の一部を破壊している可能性が高く、内部の土から副葬品（ふくそうひん副葬品）（かつちゆう鉄製甲冑）の一部が出土しています。

墓穴の中央には内部の棺が腐り落ちたためにできたと考えられる陥没穴の輪郭がみつかりました。また、乱掘穴から粘土や石材が出土していないことから、墓穴の内部には木棺が直接埋葬されている（もっかんじきそう「木棺直葬」とよばれる埋葬施設）ものと考えられます。ちなみに、棺の内部については保存のためにこれ以上の調査は行わない予定です。

また墳丘から直径 5 cm ほどの白い玉石が多く出土していることから、棺を埋葬した後、頂上に玉石を敷き詰めていたものと考えられます。



## 4 出土した遺物 ～埴輪及び鉄製品～

調査で出土した遺物は、古墳に並べられていた埴輪片、副葬品の鉄製甲冑片などがあります。埴輪はもともと古墳に並べられていたものですが、すべて転落した状態で出土しています。円筒埴輪・朝顔形埴輪のほか、盾形や家形といった形象埴輪も出土しました。これらは棺を埋葬した後、古墳の頂上に並べられていたものと考えられます。



鉄製甲冑片（ほぼ原寸）

乱掘穴2から出土した古墳時代中期の鉄製甲冑片は、西播磨地区で3例目となる大変貴重なものです。この時代の鉄製甲冑は、日本列島各地の権力者を従えていたヤマト政権から各地の権力者へ与えられたもので、中央政権と深い繋がりのある人物のみが手に入れることのできた「威信財」（所有者の権威や権力を示す器物）と考えられています。

## 5 今回の調査からわかること ～調査成果～

今回の調査では、古墳の斜面に崩れている部分があることや、乱掘穴があることなどが明らかになりました。こうした情報をもとに、古墳を適切に保護していきます。

また、調査で出土した遺構や遺物から古墳に葬られた人物の姿についても分かってきました。盾や家形といった形象埴輪は、大阪府や奈良県の古墳に並べられるものと同じで、こうした地域とより密接な関係を持った人物であることがうかがえます。また鉄製甲冑を手に入れることのできる地位にあったことも分かり、これまで考えられていた以上にヤマト政権に重要視されていた人物であったことが想定されます。

古墳の周囲には平地が少なく、集落遺跡も確認されていませんが、眼前には天然の良港である坂越湾と播磨灘を望むことができます。このことから、古墳には港や海上交通の管理・支配を司り、その地位をヤマト政権に認められた人物が葬られていると考えられます。これは赤穂のみならず、瀬戸内海の海岸部に造られた古墳を考えるうえで重要な手掛かりになるもので、みかんのへた山古墳の学術的・文化財的価値はさらに高まったといえるでしょう。

### 古墳の推定復元図

